

# 万博会場の入札不調

## 迎賓館や大催事場 資材高影響、遅れ懸念

2025年大阪・関西万博の会場整備事業を巡り、入札不調が相次いでいることが分かった。劇場型ホールを備えた大催事場や、海外の要人をもてなす迎賓館など4件で、入札者がいなかったり、予定価格内の応

札がなかったりした。資材価格高騰の影響とみられる。開催まで2年半を切る中、会場整備の遅れや建設費上振れへの懸念が強まりそうだ。関係者が5日、明らかにした。

万博会場の整備費は全体

で1850億円を上限とし、費用は国、大阪府と大阪市、経済界が3分の1ずつ負担する枠組み。既に上振れしている上、ウクライナ危機による供給不安で建築資材のさらなる高騰も懸念されるため、万博を運営する日本国際博覧会協会は早期の建設準備を関係機関に求めている。

4件の事業は6月以降順次公告され、9〜10月に入

札締め切りや開札日を迎えた。このうち大催事場は約2千席の劇場型ホールを設ける仕様で、予定価格約48億円に対し、入札者が現れなかった。

延べ床面積約4500平方メートル、予定価格約27億円の迎賓館は、予定価格内での応札がなかった。個別にパビリオンをデザインする8人のプロデューサーのうち、生物学者の福岡伸一さ

んが手がける施設(予定価格約12億円)と小催事場(同約27億円)も同様に落札に至らなかった。